

資料涉猟余話

その69

図書館で古い新聞を

漁っていると「南信」

(昭和元年3月26日)

に佐々木積(つもる)

とその娘夏川静江に触

れた「劇壇ゴシップ」

が目についた。

新聞記事で、佐々木

はこの頃「小石川小日

向水道町の青い鳥撞球

場の主人でまた新劇団

の古強者である」こと

がわかる。また「可愛い

娘である夏川静江のた

めに今度青い鳥劇団

を組織して此廿三日か

ら六日間、有楽座にそ

の第一回公演を試む」

とあり、中央で活躍す

る様子が描かれていた。

先に「伊那谷雑話

81」で、河竹繁俊編

『坪内逍遙』(富山房

昭和13年)に、明治42

年4月に坪内逍遙が文

芸協会演劇研究所を開

所し、9月の再募集組

の入所の記念写真に、

河竹繁俊・中原謹司・

佐々木積という飯田下

伊那出身の3人の青年

が写っていることを指

摘した。また同じ写真

が、村澤武夫「伊那の

芸能」(伊那史学会 昭

和42年)の口絵として

使われており、村澤は

同書189頁に明治45

年と書いている。どち

らが正しいのか、また

調べ切れていないが、

文芸協会演劇研究所は

明治43年5月に帝国劇

場で卒業公演をしてお

り、その折り松井須磨

積について、上記2書

7番屋敷の医師佐々木

享の二男として生まれ

た。祖父も医師。屋号

を四ツ目屋。東京府立

一中から早稲田大学英

文科に入學。明治42年

に発足した坪内逍遙の

文芸協会演劇研究所第

一期生(後期)とし

て、中原謹司、河竹繁

俊らと同期の入所。43

年5月の第一回卒業記

念講演「ハムレット」

は、坪内逍遙の文芸協

会第一期生の俳優。明

(帝国劇場)では劇中

王役で出演。明治44年

9月22日〜24日に文藝

協会演劇研究所私演場

で演じられた「人形の

本名は百千万億、読めますか？

嶋 不 濁

子がハムレットを上演

した記録があるので、

ここでは河竹の明治42

年9月入所説をとるこ

とにする。また河竹と

中原については他に書

いたものもあるので、

ここでは故郷でも忘れ

られた感のある佐々木

会第一期生の俳優。明

(帝国劇場)では劇中

王役で出演。明治44年

9月22日〜24日に文藝

と松井須磨子の記録や

Wikipediaな

どの情報を統合してま

とめておく。

佐々木 積(つもる

・本名は百千万億と書

いて「つもる」と読む)

は、坪内逍遙の文芸協

会第一期生の俳優。明

(帝国劇場)では劇中

王役で出演。明治44年

9月22日〜24日に文藝

協会演劇研究所私演場

で演じられた「人形の

」のキャストにも、

松井須磨子や土井春

日〜7月2日の「故郷

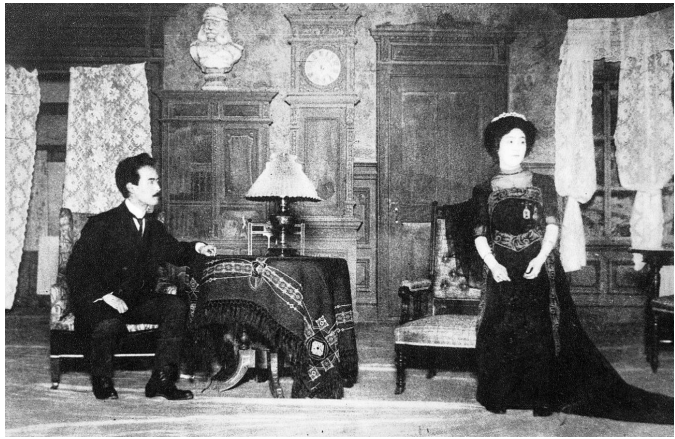
曙、東儀鉄笛らに並ん

で「アンナ」を演じた

佐々木積の名前がある



「南信」(昭和元年3月26日)



松井須磨子と共演する佐々木積(「故郷」での1コマ)

で「アンナ」を演じた佐々木積の名前があるが、素顔は特定できなかった。文芸協会解散後の大正2年舞台協会を創立し、帝劇などで公演し、新劇の俳優としてならした。女優夏川静枝(本名飯田静枝)、夏川大二郎は再婚後した妻の連れ子である。昭和20年1月6日亡くなった。

*好評発売中!
嶋不濁著「黄眠先生が行く 日夏耿之介残影」
(南信州新聞社刊)

